

⑫ 公開特許公報(A)

昭63-36468

⑬ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和63年(1988)2月17日

G 06 F 15/00

1 0 2

6549-5B

審査請求 有 発明の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 情報処理装置の前処理方式

⑯ 特 願 昭61-180511

⑰ 出 願 昭61(1986)7月31日

⑱ 発 明 者 津 田 淳 一 郎 東京都港区芝浦1丁目1番1号 株式会社東芝本社事務所内

⑲ 発 明 者 鈴 木 達 男 東京都港区芝浦1丁目1番1号 株式会社東芝本社事務所内

⑳ 発 明 者 豊 見 山 良 和 東京都港区芝浦1丁目1番1号 株式会社東芝本社事務所内

㉑ 発 明 者 尾 崎 裕 史 東京都港区芝浦1丁目1番1号 株式会社東芝本社事務所内

㉒ 出 願 人 株 式 会 社 東 芝 神奈川県川崎市幸区堀川町72番地

㉓ 代 理 人 弁 理 士 須 山 佐 一

明 細 書

1. 発明の名称

情報処理装置の前処理方式

2. 特許請求の範囲

(1) 使用者名とパスワードとが入力されたとき以後の処理を可能とさせる情報処理装置の前処理方式において、前記使用者名と前記パスワードとを前記情報処理装置と独立した記憶担体に記憶させ、この記憶担体に記憶された使用者名とパスワードとを前記情報処理装置に読み取らせ以後の処理を可能とさせたことを特徴とする情報処理装置の前処理方式。

(2) 記憶担体が、ICカードであることを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の情報処理装置の前処理方式。

3. 発明の詳細な説明

〔発明の目的〕

(産業上の利用分野)

本発明は、通常処理の前段階に行なわれる情報処理装置の前処理方式に関する。

(従来技術)

一般にワークステーション(情報処理装置)においては、このワークステーション内部のパスワードファイル内にログイン名(使用者名)およびパスワードが登録されており、キーボードから入力されたログイン名およびパスワードとパスワードファイル内に登録されたログイン名およびパスワードと照合し照合の結果一致した場合、以後の処理が可能となるいわゆるログインが可能となる方式が採られている。

(発明が解決しようとする問題点)

このように従来においてはパスワードファイル内にログイン名およびパスワードを予め登録しておくことが必要であり、ワークステーション導入時には登録が役になるので登録を行なうにあたり多大な労力と時間を費す必要があった。また複数台のワークステーションに同じログイン名を登録したり、ユーザーも複数のワークステーションにパスワードを設定しなければならないという問題があった。

本発明はこのような問題点に鑑みてなされたものでその目的とするところは、情報処理装置内に使用者名およびパスワードの情報を予め登録する必要のない情報処理装置の前処理方式を提供することにある。

〔発明の構成〕

（問題点を解決するための手段）

本前記目的を達成するために本発明は、使用者名とパスワードとが入力されたとき以後の処理を可能とさせる情報処理装置の前処理方式において、前記使用者名と前記パスワードとを前記情報処理装置と独立した記憶担体に記憶させ、この記憶担体に記憶された使用者名とパスワードとを前記情報処理装置に読み取らせ以後の処理を可能とさせたことを特徴としている。

（作用）

本発明の情報処理装置の前処理方式において、使用者名とパスワードとを情報処理装置と独立した記憶担体に記憶させ、この記憶担体に記憶させた使用者名とパスワードとを情報処理装置に読み

パスワード、ユーザーID、グループID、起動ディレクト、起動シェル名等のログインに必要な情報が書き込まれている。

次に本実施例の動作を第2図に示すフローチャートに基づいて説明する。

ワークステーション1の表示部13にはICカード15の挿入要求のメッセージが表示されている（ステップ201）。カード挿入部3にICカード15の挿入を行なうと処理部7はICカード15が挿入されたと判断し（ステップ203）、表示部13に暗証コードの入力要求を表示させる（ステップ205）。使用者名がキーボード11から暗証コードの入力を行なうと（ステップ207）、処理部7はデータ入出力部5を介してICカード15から暗証コードを読み取る（ステップ209）。処理部7はICカード15より読み取った暗証コードと使用者名がキーボード11から入力した暗証コードの照合を行なう（ステップ211）。照合が一致しない場合（ステップ213）にはICカード15の排出を行なう（ステップ215）。照合が

取らせることにより以後の処理を可能としているので、情報処理装置内に使用者名およびパスワードの情報を予め登録する必要はなくなる。

（実施例）

以下、本発明の実施例の詳細を図面に基づいて説明する。

第1図は本発明の一実施例のワークステーションの構成を示すブロック図である。同図に示されるように、このワークステーション1はカード挿入部3、データ入出力部5、処理部7、パスワードファイル9、キーボード11、表示部13からなっており、このワークステーション1は図示しない大型コンピュータに接続されていてもよい。

カード挿入部3はICカードの挿入を行なう。データ入出力部5はICカードにデータを書き込んだりICカードのデータを読み取ったりする。パスワードファイル9には複数のログイン名およびパスワードが蓄積されている。

また符号15は上記したICカードであり、このICカード15には暗証コード、ログイン名、

一致した場合にはICカード15からデータ入出力部5を介してログイン名、パスワード、ユーザーID、グループID、起動ディレクトリ、起動シェル名等の情報を読み取り（ステップ217）、パスワードファイル9にこれらの情報を登録し（ステップ219）、ログイン処理を行ない（ステップ221）、以下通常の処理が行なわれる（ステップ223）。しかる後、このような処理が終了するとログアウト処理を行ない（ステップ225）、ICカード15の排出を行なう（ステップ215）。さらにパスワードファイル9から上記した際に登録した情報の消去を行なう。

このように本実施例では従来パスワードファイル内に登録しておいたログインに必要な情報を予めICカード15内に書き込んでおきICカード15をワークステーション1に挿入する毎にワークステーション1がこれらの情報を読み取ってログインを行なうようにしたので、パスワードファイル9にログイン名等の情報を予め登録する必要がなくなる。

なお、本実施例ではログインに必要な情報をカード排出毎にパスワードファイル9から消去するようにしたが、これをパスワード9内に蓄積しておいてもよい。また、本実施例では暗証コードの照合を行なうようにしたがこの暗証コードの照合を省略してもよい。

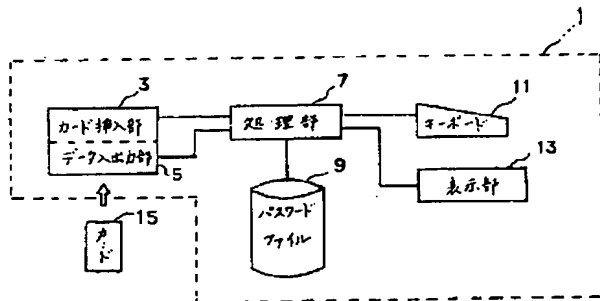
〔発明の効果〕

以上説明したように本発明の情報処理装置の前述処理方式によれば、情報処理装置内に使用者名およびパスワードの情報を予め登録する必要がなくなる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例のワークステーションの構成を示すブロック図、第2図はこの実施例の動作を示すフローチャートである。

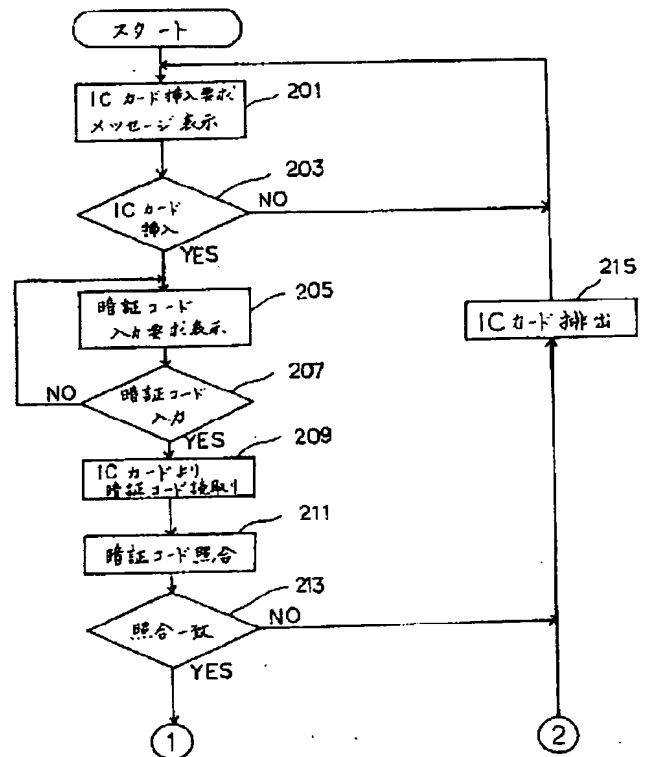
- 1ワークステーション
- 3カード挿入部
- 5データ入出力部
- 7処理部
- 9パスワードファイル



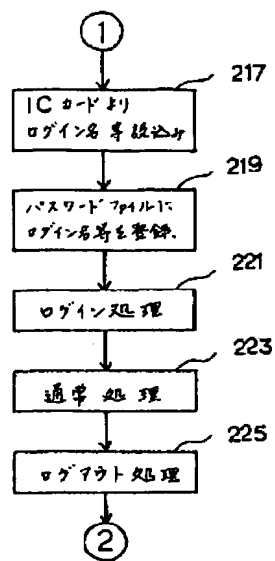
第 1 図

15 ICカード

出願人 株式会社 東芝
代理人 弁理士 須山 佐一



第 2 図 (1)



第 2 図 (ロ)